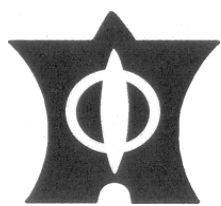


7月号 尼崎市立大成中学校 平成24年6月29日



大成中だより

よりよい大成中に！

20日(水)5・6校時に生徒総会を行いました。生徒達のさらに大成中をよくしていこうといういろいろな提案に沿い、一つひとつ先生達で協議をした結果について全校生へ知らせました。真剣に耳を傾けている姿に頼もしさを感じるとともに、それぞれの小学校の後輩達に見せてやりたいと強く思いました。きっと誇らしい先輩達だと感じることでしょう。

ー第1回進路説明会ー

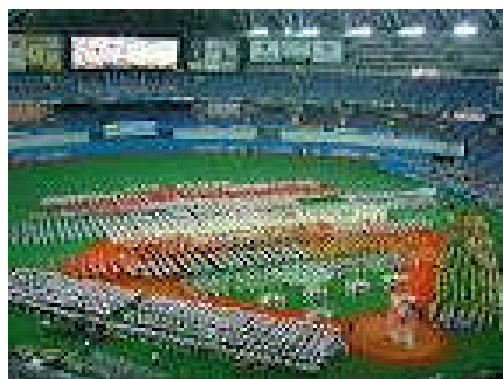
18日(月)に3年生の保護者対象に第1回進路説明会を行いました。進路担当教員より、進路選択にあたっての心構えや、入試制度、また進路状況などの説明をしました。これから生徒一人ひとりが具体的に進路を決めていかねばなりません。始めの挨拶でも話しましたが、来年春の高校進学は義務教育を終えた初めての進路選択となります。人生、何度かの進路選択がありますが、長い人生の第一歩ということになりますので、自分の進路に意欲と自信を持って臨めるようにしたいものです。進路は勝ち負けではなく、また他のお子さんと比較されるものでもありません。この進路選択をきっかけに、将来への夢と希望を持たせられるよう助言をしていくことが大事だと考えます。まずは学校と家庭との連絡を密にしながら進めていくことが必要不可欠だと思います。

ー2年生ハローワーク講演会ー

21日(木)に2年生がハローワークにお勤めしている職員の方々から、「ハローワークの役割」や「トライやるウィークを通して何を学ぶのか」、「就職をするということは」、「働くということは」、「学校と職場の違い」、「働くために必要な力」等々、現実的なお話をしていただきました。世の中はそんなに甘くはなく、家族を養うためにみんな必死の思いで働いているということ、一人ひとりに少しでも理解してほしいという願いから取り組みました。どの顔もそれぞれのお家の人の仕事を振り返りながら、社会人としての現実の厳しさを少しは理解できたのではないかと思います。

ー3000人の吹奏楽ー

23日(土)に「京セラドーム大阪」で『第52回3000人の吹奏楽ードームに響け！心のハーモニー』という関西テレビ主催の3000人吹奏楽がありました。関西各地域から、各高校吹奏楽部や各市立中学校合同バンド、高校合同バンド、各地区合同バンド、大学等の吹奏楽部の児童・生徒・学生達が一堂に会しての大合奏です。出演団体の中にはマーチングバンド部やチアリーダー部などの出場もあり、また52回の歴史からも分かるように場内は感動の渦の中、すごく盛り上がった『3000人吹奏楽』でした。もちろん大成中吹奏楽部も出演しました。黄色いお揃いのTシャツを着て、とても張り切って取り組んでいました。



ー期末テストー

25日(月)～27日(水)の3日間に期末テストを実施しました。自分も中学生の頃はよくテスト前に徹夜をして臨んだ覚えがあります。日頃からコツコツと勉強していれば慌てることもないんですが、部活の練習後はしんどくて中々勉強ができないため、というより勉強をしないために徹夜となるわけです。つまり最後の手段が徹夜というこ

とになります。皆さんはそういうことのないように、日々授業にしっかりと耳を傾けて少しずつ復習をしていると徹夜などしなくてもすみます。一生の間に何度も勉強をする必要が生じてきますので、自分の勉強の仕方を確立することも大事です。自分は早く寝て、夜中の3時～4時頃に起きて3～4時間集中的に勉強をしました。すると、同じ時間で日中の倍ほどの効果が現れました。不思議と一段と記憶力がよくなるのです。一度実行してみてください。効果絶大です。



ー教育実習が終わるー

6月4日(月)～29日(金)の間、7人の教育実習生が教師になるための実習に来ました。その内6人は22日(金)までの3週間、1人が29日(金)までの4週間です。そのほとんどが本校の卒業生であることが何よりも嬉しいです。体育に三上舞先生、三村明日香先生、内田麗奈先生、田中大輔先生、英語に大塚俊希先生、西田千尋先生、理科に皆倉陸先生の7人です。実習期間中必死の思いで授業研究等に取り組んでいました。最後の涙ながらの挨拶からもそのことがよく分かりました。是非とも教師になって大成中に赴任してほしいと願っています。

ー生徒の皆さんへー

今月号では、北京オリンピック・シンクロ日本代表の石黒由美子さんのことについて紹介したいと思います。少し長いですが是非とも読んでください。

石黒さんは最初からシンクロの選手を目指していたわけではありません。小学校2年生の時、ある雨の降る晩、クラシックバレエの練習を終え、迎えにきてくれた母親の車に乗り込み、シートベルトをつけようとしたその時、免許取り立ての18歳少年の車が正面から激突しました。フロントガラスに跳ね上がった石黒由美子さんの顔は、鮮血にまみれ、目鼻の見分けがつかないほどの傷を負いました。1時間後、やっと受け入れ先の病院が見つかり、搬送されました。

各分野の医師が揃った救急スタッフの特別チームが組まれて、7時間にも及ぶ手術が行われました。顔面粉碎骨折、眼球打撲、網膜剥離、手足の骨折等々。顔だけで540針、口の中は260針も縫う大手術でした。医師から「顔中の神経が断絶しており、深い傷跡が残るでしょう。表情を作ることも難しいかも知れません。右目はまぶたが攣れ、開いたまま閉じることができなくなる可能性があります。言語障害などの様々な障害が出てくることを覚悟しておいてください。普通の暮らしに戻ることは望めないかも知れません。」さらに、事故前の記憶がすっかり失われ、目も耳もほとんど見えず、聞こえない状態でした。

99.9%視力の回復はないと言われた目は、高度レーザー治療により奇跡的に回復の兆しが見えましたが、視野狭窄の症状が残りました。顔の手術は計3回に及び、眉間の奥に埋まっていた1cm角ほどのガラス片も、大きなくしゃみにより大量の出血とともに飛び出るなど、奇跡は次から次へと起こりました。入院中は、毎朝各病室を回りあいさつ運動をしたことで、病棟全体が明るくなり、無表情だった患者さんの口数も増え、笑顔が見られるようになりました。

ある日、母親が録画した宮沢りえ主演の「スワンの涙」というドラマを見て、アキレス腱を切ってバレリーナになる夢を断念するが、シンクロ選手としての才能を開花していく主人公に感動し、シンクロでオリンピックに出る目標を持ちました。この時から母と二人三脚のシンクロ人生が始まりました。

事故から半年後に退院して自宅に戻りましたが、家のことや自宅周辺のことは何一つ記憶がありません。また、運動能力の低下も著しく、三半規管も損なわれていたために、走れないどころか、真っ直ぐに立つこともできませんでした。乗っていた自転車も2、3回ペダルをこいだところで倒れてしまいました。学校生活においても通常学級の生活が難しいと言われるほど学習等についていくことができませんでした。しかし0点を取っても母親に怒られることもなかったのも、テスト用紙を隠したりする必要もなかったそうです。そうした苦しい中で、シンクロ選手になる夢や願い事などを「夢ノート」にせっせと書き留めていきました。

シンクロの練習初日、事故前は水泳が得意でしたが、クロールも平泳ぎも泳ぎ方や呼吸の仕方を忘れていました。完全に閉じれない右目も、塩素水によって刺激が強く、すぐに真っ赤に腫れ上がりました。コーチは身体的ハンディを一切特別扱いせず、徹底したスパルタ式で驚くほど根性が養われたそうです。

しかし、体のバランスや聴覚障害等の致命的な身体的ハンディにより、他の練習生とは決定的に違い、同じような練習メニューはこなせませんでした。月、水はスイミングスクールに、火、木、土、日はシンクロスクールに通い、来る日も来る日も猛練習を重ねました。その苦労の甲斐あって、小学6年生の時、ようやくポンと壁を越え、急に体が思い通り動くようになったそうです。そしてコーチから「ソロ、石黒由美子」の一声があり、単独でソロのレッスンを受けられるようになりました。そして、全国ジュニアオリンピックカップの「フィギュア」種目で5位に入賞した時は飛び上がるほど嬉しかったそうです。「夢ノート」に書くことでどんどん夢が一つずつ叶えられていきました。

中学生時代は順調そうに見えたシンクロも、あまりの辛い練習に耐えかねて、何度もシンクロを止めようと思ったそうです。その都度、母親から旅行に連れて行ってもらったりしながら、たくさん励まされてきました。低空飛行だった学習も、母から執拗に進められた読書やCD朗読の流れた家庭環境によって、少しずつ向上してきました。

高校進学後、2年生の時に、JOC全国ジュニアオリンピックカップで準優勝し、優秀選手賞に輝きました。これがアテネオリンピックへの出場を目指せると思った最初の出来事だったそうです。さらによく年、念願の日本代表に選拔され、FINA ジュニアワールドカップでチーム2位の成績をおさめました。

大学入学後、シンクロ大会出場のため、水泳連盟に所属する必要があったので、水泳部に入りましたが、練習には参加せず、試合の時だけ出場しました。東海ブロックの決勝に残るなど、目立つ存在だったので、傲慢そのものだったようです。

シンクロ日本代表選手の選考は、FINAジュニアワールドカップ、FINAワールドカップ、日本選手権、世界選手権、アジア大会、全国チャレンジカップ、スイスオープンなど、様々な大会で個人個人が審査され、ポイントがつけられます。そのポイントによりランキングが決まり、15歳～18歳の有力選手はジュニア日本代表に属し、18歳以上の有力選手は、ナショナルAチーム代表か、その下のナショナルBチーム代表に属します。Aチーム下位ランクの選手とBチーム上位ランク選手の実力差は紙一重で、激しく順位が入れ替わり、そこにジュニア日本代表の有能選手も加わってきます。オリンピック代表選手に選ばれるのは合計9人。チームは8人編制なので1人は補欠です。



大学1年の時Bチームに属していました。ランクとしてはBチームの2～3位くらい、全体では13～14位くらいでした。それでも翌年までにポイントを挽回し、絶対に9人の中に入り、アテネに行けると信じて疑わなかったそうです。しかしその後の代表選考会で10番の順位、たった一つの差で代表からもれ、地獄のどん底に落とされました。天狗の鼻もポキンと折れてしまいました。

その後、付属小での教育実習や中国ナショナルジュニアチームの指導に赴いたりして、帰国後、シンクロを止める決心をしました。シンクロを止めてからは暴食がたり、80kgオーバーまで体重が増えてしまいました。普通の大学生に戻ってから1年半がたった頃、シンクロ仲間がナショナルAチームに入りその競技を見たことで、無性に惨めになり、シンクロの世界へ猛烈に戻りたいと思ったそうです。プールを去ってから1年半、シンクロの世界へ戻ろうと一大決心し、「夢ノート」にその決意を書きました。

1年半のブランクを経てのトレーニングは、試合勘を取り戻す以前の問題で、復帰後しばらくは練習にもついて行けませんでした。専門家による減量トレーニングの効果もあり、83kgあった体重は54キロにまで落ちました。そして死にものぐるいの練習の結果、後輩たちと日本選手権で表彰台に上られるまでになりました。

それから大学院に進み、もう一度北京オリンピックを目指す決心をしました。その頃はナショナルBチームに属していて、いよいよ北京オリンピック日本代表選手選考会に望みました。その結果、順位は8位で代表枠9人の内の一人に選ばれました。全身がカーッと熱くなり喜びで胸がいっぱいになり心底嬉しかったそうです。

そして、国内や各国の強化合宿を経て、2008年8月8日、夢の北京オリンピックが開幕しました。「夢ノート」に書いてきたことがとうとう実現しました。本番の競技中は「ノームス、ノームス、ラスト1回！最高の演技をするんだ」と心の中で繰り返しつつやき、自分の演技に集中しました。結果は、総合成績5位。メダルが取れないということは全くの想定外でした。信じられない結果にコーチ、選手とともに言葉を失ったそうです。石黒さんの波瀾万丈だった人生においても、これほどショックだった出来事はないそうです。支え応援くれたたくさん

の人に申し訳ないという気持ちでいっぱいだったようです。

翌日の全国紙に、「後遺症克服、笑顔の舞」「ハンディキャップを背負って生きている人たちにメッセージを届ける」と、石黒さんに関する記事がカラーで取り上げられました。メダルが獲れなかったにもかかわらず、前向きな記事を書かせてもらい、本当に有り難かったそうです。記事を見て、勇気や希望を持ってくれる人がいるかも知れないと思うと、メダルを逃して意気消沈していた石黒さん自身が励まされたそうです。母二人三脚のシンクロ人生は、ここに結実したと言えるでしょう。



ずっと支え続けてくれた母に寄せる思いは、「感謝」の2文字しか浮かばないそうです。メダルを持って帰ってやることはできなかったが、これからの人生で精一杯恩返ししていきたいと強く考えているそうです。

その後石黒由美子さんは、神戸大学大学院博士課程の人間行動専攻を修了し、西宮市立香櫨園小学校や大阪府高槻市医師会看護専門学校等の非常勤講師等を勤め、現在は職業訓練所等のハンディのある人たちの自立を支援する「ママズハートクラブ」を設立して世の中のために活躍されています。

この感動的な話は、2年前に出版された『奇跡の夢ノート』（石黒由美子著）にあります。初めて読んだ時は、努力は決してその人を裏切らないんだと涙が出るほど感動しました。もうすでに読んだ人もいますが、機会があれば読んでみてください。

【7月の行事予定】

4 水	歯科検診(未受験者)	14 土	土曜チャレンジ
5 木	3年学力実態調査 2年マナー講座	17 火	個人懇談
7 土	土曜チャレンジ	18 水	個人懇談
9 月	生徒朝礼 1年「いのちの教育」講演会	19 木	集会・大掃除・学活等
10 火	専門委員会	20 金	終業式
11 水	個人懇談	24 火	基礎学級合同キャンプ(るり溪自然公園)
12 木	個人懇談	25 水	基礎学級合同キャンプ(るり溪自然公園)
13 金	個人懇談		

ー課外クラブの活躍(県中学校少林寺拳法大会)ー

【男子単独演武】

◎ 2位 岡亮太 3位 佐藤優輝

【男子組演武】

◎ 3位 藤井悠佑 小林春樹

【男子団体演武】

◎ 1位 藤井悠佑 小林春樹 前田響 與座成人 小川暁 東谷魁人

◎ 2位 平田樹 南智樹 門脇由翔 朴純也 岡亮太 菅祐哉

【女子団体演武】

◎ 2位 上野楓 東谷綾香 橋田茉侑 小柳千優 福岡奈々海 飯塚彩

上村誌帆 山尾理菜



※ 3年生最後の夏の中総体が始まります。3年間この大会のために必死に頑張ってきたんです。有らん限りの力を出し切り、全力で臨みましょう。**頑張れ3年生！**